

# 藻岩の緑

(明治四十四年寮歌)

松山茂助君 作歌  
柳沢秀雄君 作曲

一

藻岩の緑春蘭けて  
萬草一朵の朝霞  
憧憬彩と流れては  
花皆奇しき香ならずや  
若き血潮の踊る時  
希望の前途光あり

二

青葉波よるアカシヤの  
薫る木影に立ちよれば  
長風夏の雲ゆらぎ  
秋は牧場の夕まぐれ  
鐘声止みて今暫し  
牛の背に散る鳶紅葉

三

あはれ「美の国」石狩の  
自然を己が揺籃に  
おほし立つ可き人皆の  
意気紅雲に似たるかな  
一撃万里す大鵬の  
翼整装ふ思あり

四

斗南の翼拡げては  
天地広しと誰か云ふ  
雲より高きアンデスの  
裾野に友よ羊逐へ  
天に漲るアマゾンの  
岸辺の森に斧を振れ

五

弦月落ちて白楊の  
樹林の暗の深き時  
八荒裂けて万籟の  
声すさまじく吹雪く時  
世の濁流を叱咤して  
巨人の叫び茲にあり

六

浮華輕佻の風あれど  
驕奢の波は狂ふとも  
北斗の光清ければ  
世は永久に我世なり  
聞けや人々北州に  
正気溢るる意気之歌